

科目名	(D) コミュニケーション論研究 (2019年度以降入学者) 英語文化研究 (2018年度以前入学者)	担当者	板場 良久
開講期	通年	単位数	4単位
<b>【概要】</b>		<b>【授業計画】</b>	
<p>(1) 受講生のニーズを前提とせず、ニーズの入念かつ批判的な再検討から始め、その上で受講生の研究テーマの構築および研究成果へ向けての活動を進めていきます。</p> <p>(2) 文化研究とコミュニケーション研究の知見を融合させながら、受講生の</p> <p>(3) この授業で研究できるテーマには次のようなものが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション理論</li> <li>・コミュニケーション教育論</li> <li>・異文化コミュニケーション論</li> <li>・英語コミュニケーション論</li> <li>・映像コミュニケーション論</li> <li>・教材開発の理論と制作（制作物は、コミュニケーション教育を主目的としたもの）</li> <li>・文化研究と文化批評（高級文化からポップカルチャーまでをカバー）</li> <li>・メディア研究とメディア批評（マスコミ・ジャーナリズム研究からインターネット社会論までをカバー）</li> <li>・レトリック研究（政治のレトリックから科学のレトリックまでをカバー）</li> </ul> <p>(4) 開講曜日は土曜日を想定していますが、受講生との協議を通じて、フレキシブルに対応したいと考えています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概略説明（授業方針の確認、その他）</li> <li>2. &lt;文化の研究&gt;と&lt;文化研究&gt;の違い</li> <li>3. 文化研究 1</li> <li>4. 文化研究 2</li> <li>5. 文化研究 3</li> <li>6. 文化研究 4</li> <li>7. 文化研究 5</li> <li>8. 文化研究 6</li> <li>9. 文化研究 7</li> <li>10. 文化研究 8</li> <li>11. 文化研究 9</li> <li>12. 文化研究 10</li> <li>13. 文化研究 11</li> <li>14. <b>中間報告 1</b></li> <li>15. コミュニケーション研究 1</li> <li>16. コミュニケーション研究 2</li> <li>17. コミュニケーション研究 3</li> <li>18. コミュニケーション研究 4</li> <li>19. コミュニケーション研究 5</li> <li>20. <b>中間報告 2</b></li> <li>21. コミュニケーション研究 6</li> <li>22. コミュニケーション研究 7</li> <li>23. コミュニケーション研究 8</li> <li>24. コミュニケーション研究 9</li> <li>25. 論文執筆指導 1</li> <li>26. 論文執筆指導 2</li> <li>27. <b>研究発表、相互評価</b></li> <li>28. まとめ</li> </ol>	
<b>【到達目標】</b>		<b>【事前・事後学修の内容】</b>	
コミュニケーション論に関する文献を読み、より高度な議論ができるようにする。		各回に関連するテキストや参考文献を精読してから授業に参加し、授業で議論したことをいかに研究に反映させ得るのかも考えていく。	
<b>【テキスト・参考文献】</b>		<b>【評価方法】</b>	
<p>テキスト： John Storey, <i>Cultural Theory and Popular Culture</i> (Routledge, 2018).</p> <p>参考文献：池田編『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）。</p> <p>その他に資料を配布します。</p>		<p>毎回の発言：20%、中間報告：20%、学年末の論文：60%</p>	